

平成30年度 授業改善推進プラン学年（1・2・3）教科（社会）

1 生徒の実態（実態把握・調査の結果の分析）

（1）生徒の実態

- ・1年生 → 授業規律も守られ、明るく、積極的に意欲的に勉強に取り組もうとする姿勢が見られる。家庭学習用単元プリントも全員が提出できている。定期テストの結果から基礎用語の習得を感じられるが、事象の関連性や用語を使った説明をする事が課題である。
- ・2年生 → 意欲的に発言する生徒と分かっているが発言することが苦手な生徒が明確になっている。一問一答的な用語を習得している生徒は多い。習得した用語の意味を理解し関連させて問題を説く事が課題である。
- ・3年生 → 授業態度・提出物と規律を守る意識が高い。地理・歴史と公民的思考を繋げていくことが課題である。

調査結果の分析

- 1・2年生 → 学力調査の結果から、全体的に応用問題や地図・資料読み解く力が弱い。宿題を出さなければ家庭学習をやらない、出来ない、苦手な問題には取り組まない生徒にその傾向がある。
- 3年生 → 公民分野に入り、日本の社会の仕組みと自分たちの生活する地域との差があるため、頭では理解していても、実感が薄い生徒が多い。単元だけではなく、全体的に社会科の理解を深めることが必要である。

2 指導上の共通課題

- ・単元の目標をはじめ板書をわかりやすく書く。
- ・勉強の仕方やまとめ方の指導を行なう。
- ・基本用語の知識の定着と理解を深める。
- ・2・3年生は既習した学習を現在の単元や社会事象を意識し、思考力を深める。
- ・単元プリントを出し、家庭学習の定着を目指す。

3 授業改善の視点とその方策

1年生・2年生

（1）授業改善の視点

- ・基礎学力の徹底を図り、思考させる事を大切に取り組む。
- ・「分かる」事を多く体験させ、関心や意欲をもって自主的に取り組む。
- ・基礎学力の不十分な生徒に対する指導の工夫に取り組む。

（2）方策

- ・本時の目標を明確にし、板書は自主学習がしやすいように配慮する。

- ・教科書をしっかりと読み、重要用語を確認するとともに、読み込んだ内容を把握する力を育む。
- ・小单元ごとに用語の確認テスト、宿題から理解度の確認を行う。
- ・発問後、分からない場合は教科書・資料を確認する習慣をつけさせる。
- ・基礎学力の不十分な生徒には、用語の確認テストの復習や授業中の取り組みの補助を行い、意欲的に学習に取り組む姿勢を育む。
- ・授業の中で、お互いを助け合う心を育む。

3年生

(1) 授業改善の視点

- ・公民は日本国憲法の意味と役割を踏まえ、民主的な考え方の基礎を理解できように取り組む。
- ・社会的現象の背景と、自分たちの地域の環境との差がある場合は、ICTを使い全体のイメージを定着させる。
- ・基礎基本の定着の徹底させるように取り組む。
- ・学力の不十分な生徒に対する指導の工夫に取り組む。

(2) 方策

- ・本時の目標を明確にし、板書は自主学習がしやすいように配慮する。
- ・教科書をしっかりと読み、重要用語を確認するとともに、読み込んだ内容を把握する力を育む。
- ・小单元ごとに用語の確認テスト、単元プリントで理解度の確認を行う。
- ・発問後、分からない場合は教科書・資料を確認する習慣をつけさせる。
- ・基礎学力の不十分な生徒には、用語の確認テストの復習や授業中の取り組みの補助を行い、意欲的に学習に取り組む姿勢を育む。
- ・受験に向けて、過去問題に取り組み、試験の傾向や学習の取り組みの意識を高める。